

「回遊型施設における動的プライシング」

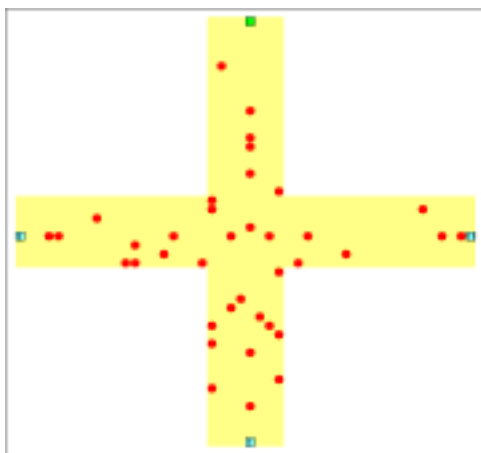
慶應義塾大学 経済学部 4年

武山研究室 橋本 紘

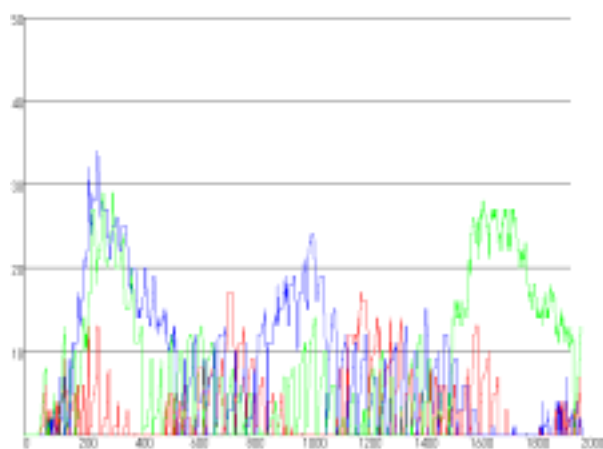
アブストラクト

「来園者に優しいテーマパーク」という研究がある。これは遊園地の入場者が各アトラクションの混雑情報を直接アトラクションの場所に行かなくても遠隔地から取得できる場合に、全体として混雑状況はどのようになるのか、また、混雑情報をもつ者ともたない者の割合をかえることで混雑状況はどう変化するか、という点を中心にシミュレーションを行った研究である。考察からは、情報保持者が一定の割合のとき非常に大きな効果を生む。しかし、情報保持者が多くなるとかならずしも情報保持者の満足度が向上するとは限らない、ということがわかった。この結果はカーナビの普及がかえって混雑を招くといったような現実社会への示唆にも富んでおり、非常に興味深い研究である。

本モデルでは、この研究にさらに価格という概念を導入する。混雑状況に合わせてリアルタイムにアトラクション価格を変化させる、という動的プライシングを導入すると混雑状況はどのようになるか、(例えば、株価やネットオークションの価格は需要に合わせて価格が変動するので、動的プライシングのよい例である)また、消費者余剰や生産者余剰といった経済学的な概念を導入し、アトラクション価格が固定の場合と混雑状況に応じて変化する場合とではどのような変化が現れるか、(つまり、固定価格とは違って動的プライシングを導入すると、生産者 = 遊園地と消費者 = 来園者のどちらが得をするのか)という点に着目して MAS でシミュレーションを行う。



シミュレーション実行図



各アトラクションの混雑状況